

小学生版

# あたらしい児童書 NO. 302 2025. 2. 8

遠軽町図書館  
遠軽町大通南4丁目  
TEL42-3632  
FAX49-2102

本が見あたらないときは、かかりの人に聞いてね。予約もできます。新しい本は他にもあります。小初は1・2年、小中は3・4年、小上は5・6年をめやすにしてください。

## 『しろいねこリリー』 くさの たき／作

・たけださんの家でかわいがられている白いねこ、リリーは、毎日、日の当たる窓辺でからだを舐めてきれいに行っている。ある日、外に出てしまったリリーは、ぐったりと横たわる黒ねこ子ねこたちを見つけ…。(小初)



## 『野ばら』 小川 未明／文

・大きな国と小さな国の国境には、両方の国からひとりずつ兵士が派遣されていた。派遣された大きな国の老人の兵士と小さな国の青年の兵士はいつしか仲良くなるが、ふたつの国が戦争を始め…。小川未明の名作をあべ弘士が絵本化。(小初)



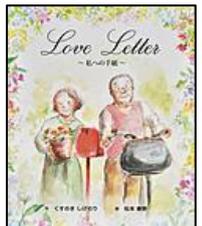
## 『あるジャム屋の話』 安房 直子／文

・森の中にある小さなジャム屋。ジャムのお味はとびっきりなのにちっとも売れません。どうしたものかと困っていたら、ある夜、思いもかけないお客さんがやってきて…。ところがぽっとあたたかくなる、やさしい物語。(小初)



## 『Love Letter 私への手紙』 くすのき しげのり／作

・何を売っているわけでもなく、誰かが何かを置いていき、そして何かを持って帰るお店「Life」。おじいさんとおばあさんは、Lifeから持ち帰ったルーペでアルバムの思い出をたどり…。絵本「Life」の数年前の物語。(小初、小中)



## 『今日にかぎって』 樺島 ざくろ／作

・遊びにきた遠くの公園で、自転車のかぎをなくしたぼく。今日にかぎってケータイはないし、友だちも帰ってしまった。仕方がないから自転車を運んで帰ることにしたけれど、そこに苦手なクラスメイトの松田くんが現れて…。(小中)



## 『ふしぎ駄菓子屋銭天堂 吉凶通り 2』 廣嶋 玲子／作

・その駄菓子屋は、幸せと不幸のわかれ道。女主人・紅子が、きょうもお客さんの運命を駄菓子で翻弄する。「ごあいさつ入れ」など、駄菓子屋「銭天堂」や「善福書店」で買い物をした人たちの不思議なお話全8編を収録。(小中)



## 『神さまの通り道 2 よみがえらせてはいけません』

村上 しいこ／作

・小学生の願太の部屋には、なぞの神さま、スーさんもすんでいる。願太は、クラスメイトから死んでしまったペットに会いたいわれ、スーさんに相談するが、スーさんはだめというばかりで…。(小中)



『かみさまのベビーシッター 4 かみさまの家出』作／廣嶋 玲子  
・幸介はいっしょに暮らす、かみさまの赤ちゃん・ボンテンが大好き。けれど、クラスメートの家のかみさまは、ボンテンと違って甘えんぼうでもわがままでもなく、願いごとをなんでも叶えてくれると聞き、心乱れ…。(小中、小上)



『魔女だったかもしれないわたし キーディの物語』  
エル・マクニコル／著  
・アディの姉キーディは、いじめから生徒を守る「いじめ退治代行サービス」を始め…。同調性や「ちがい」への不寛容さと葛藤しながらも強く立ち向かう自閉の少女の物語。2022年刊「魔女だったかもしれないわたし」の前日譚。(小中、小上)



『カフェ・スノードーム』石井 睦美／文  
・ありふれた街角にある、カフェ・スノードーム。ふだんは目に留まりませんが、この場所を必要とする人には見つけることができます。店主・タマルさんの淹れたスパイシーな香りのするお茶を飲むと、不思議なことが起こって…。(小中、小上、中)



『あたたかな手 なのはな整骨院物語』濱野 京子  
・すこしでも誰かの痛みや苦しみをやわらげることができたらー。人に触れるのが苦手だった新人柔道整復師の春哉と整骨院の人々、そして地域ネコのマルがつむぐ優しい物語。(小上)



『月曜倶楽部へようこそ!』森埜 こみち／作  
・カンナちゃんが、ふられた相手に自分の気持ちを短歌にして伝えたいという。律たちは倶楽部を結成し、短歌・俳句作りを始め…。日本人が長い時間をかけてはぐくんできた日本文化について、物語を通して理解を深めるシリーズ。(小上)



『まさきの虎』濱野 京子／作  
・ふいに頭に浮かぶ、まさきくんの笑顔。でも、もう二度と会うことはできないー。5年ぶりに戻った、リアス式海岸の海と緑の町で、真莉愛は東日本大震災で失われた命と向き合うことになり…。(小上)



『出てこい、写楽!』楠木 誠一郎／作  
・日本橋にある版元「耕書堂」では、東洲斎写楽の絵が飛ぶように売れ、うれしい悲鳴をあげるばかり。しかし写楽が突然、部屋に引きこもってしまった。店主・蔦屋重三郎は、十返舎一九や喜多川歌麿のところへ相談に行き…。(小上、中)



『わたしと話したくないあの子』朝比奈 蓉子／作  
・3年生の時に転校してしまった親友のわかなが、6年生になって戻ってきた。早紀はまた仲良くできると思ったのに、「わたしに関わらないで」と拒否されてしまい…。悩みながら前を向く女の子たちの物語。(小上、中)

